※令和４年度以降入学生用

学校番号	2003

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校　数学Ａ　（数研出版）						
副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋Ａ（数研出版） クリアー 数学Ⅰ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学は考えている「途中」が、最も大切です。特に場合の数、確率においては自分で図や表を使って自分の力で場合分けをできるようにしましょう。日々取り組む課題も答えや解説を横に置いたまま取り組むことのないよう、じっくり時間をかけて解いてみてください。問題集（クリアー）を週末課題として課すので、その日に学んだ内容は早めに復習すること。

2　学習の到達目標

（１）場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。
（２）事象を数学的に考察する能力を培い、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を判断したりする力を養う。
（３）数学のよさを認識し、数学を活用する態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における概念，原理・法則などを体系的に取り組み，数学的に問題に取り組み、活用できる能力を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	図形の性質	三角形の辺の比 三角形の重心･外心･内心･垂心 チェバの定理･メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線 2 つの円 直線と平面 空間図形と多面体	a:三角形の性質･用語について理解する。図形の問題の基本を理解する。 b:チェバの定理･メネラウスの定理を利用できる。方べきの定理を利用して辺の比が求められる。 c:オイラーの多面体を利用して、辺・頂点・面について調べることができる。	定期考査	定期考査	週末課題 小テスト ワークシート
	場合の数と確率	集合 要素の個数 場合の数 順列 組合せ	a:集合を利用して個数を調べる。樹形図の利用と順列の計算。組合せの計算。 b:実例から個数を求められる。実例から順列・組合せを求められる。 c:複雑な条件での個数・順列・組合せに興味を持ち求めることができる。	定期考査	定期考査	週末課題 小テスト ワークシート
後期	整数の性質 場合の数と確率	事象と確率 確率の基本性質 独立な試行 条件付き確率 期待値 約数と倍数 最大公約数と最小公倍数	a:確率の基本性質の理解。独立試行や反復試行の理解。約数・倍数の理解。 b:確率の問題を解くことで、計算方法を合理的に選択できる。 c:設問に、上記の知識を利用して問題解決に活用しようとしている。	定期考査	定期考査	週末課題 小テスト ワークシート
	集合と命題 整数の性質	整式の割り算と商･余り ユークリッドの互除法 一次不定方程式 分数と小数 n進法 命題と条件 命題と証明	a:互除法や不定方程式の原理を理解する。n 進法について理解する。命題の用語を理解する。 b:互除法を利用して、不定方程式を解ける。 n 進法の計算ができる。命題について真偽を確かめる。 c:複雑なｎ進法の問題を考える。命題の必要条件･十分条件について考察することができる。	定期考査	定期考査	週末課題 小テスト ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度